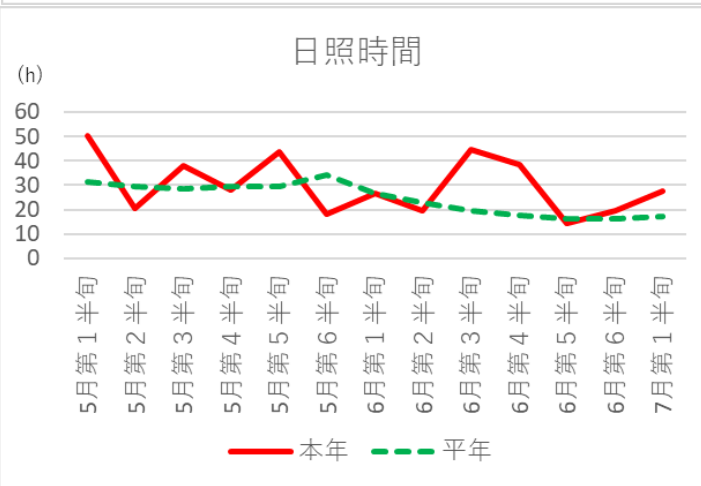
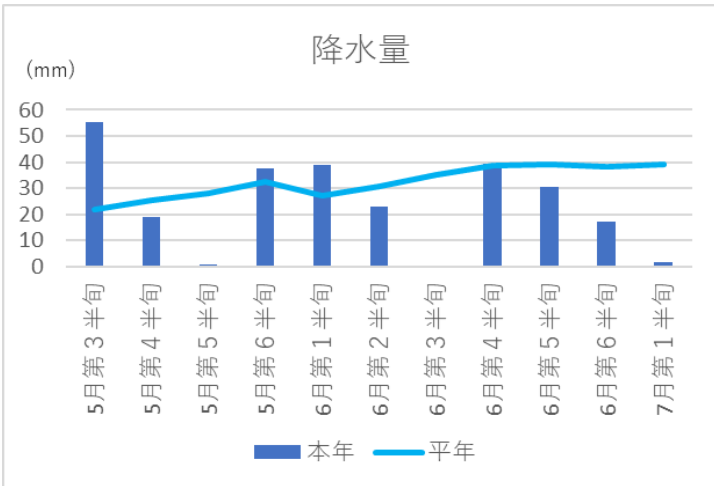
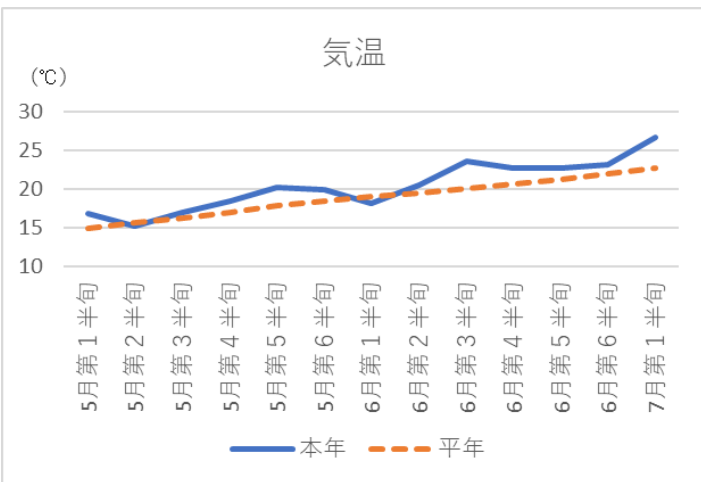


- ◆ **5月上旬植のコシヒカリの出穂は、鹿沼市では7月24日頃(5月9日植)、日光市では7月20日頃(5月4日植)となる見込みです！**
- ◆ **出穂期・開花期は最も水を必要とする時期です。不足しないよう、こまめな間断かん水を行いましょう！**
- ◆ **斑点米発生防止のために、出穂前の草刈りと出穂後の薬剤散布を徹底しましょう！**

○気象の推移 (鹿沼市アメダス)

・鹿沼市は、高温少雨多照で推移しました。

平均気温：平年比108%  
降水量：平年比79%  
日照時間：平年比123%



○水稲出穂期予測(生育診断ほ調査結果7月5日)

- ・幼穂長から判断すると、**鹿沼市**の診断ほでは、**7月24日頃に出穂する見込み**です。  
**日光市**の診断ほでは、**7月20日頃出穂する見込み**です。**平年より早い出穂が予想**されます。
- ・出穂期予測は今後の天候で左右されるので、ほ場の状況を確認しましょう。



鹿沼市  
幼穂6mm(7/5)  
出穂19日前



日光市  
幼穂2cm(7/4)  
出穂15日前

## ○今後の技術対策

### 【水管理】

- 5月上旬植えのコシヒカリはまもなく出穂期を迎えます。現在は、幼穂形成期の時期です。この時期に水分が不足すると1穂もみ数の減少や奇形穂が発生しますので、**水不足にならないように留意しましょう。**
- 出穂期～登熟期(特に登熟初中期)にかけての**異常高温は、稲体を衰弱させ、乳白等の白未熟粒や胴割粒の発生を助長します。****夜間かん水**により地温を低下させて、**根の活力維持に努めましょう。****高温時の常時湛水管理は、高水温により根腐れが起きやすくなるので、間断かん水を行いましょ！**
- 中山間地等で用水温が低い地域は、昼間止水夜間かん水等により**水田の水温および地温の確保**に努めましょう。特に**幼穂形成期～出穂期までの冷害は危険**です。この時期に**低温(日平均気温が20℃を下回る日が長期間続く場合や、短時間でも17℃を下回る場合)**が予想される場合は、**深水管理(水深10～20cm)**に努めましょう。

### 【いもち病対策】

- **稲の上位葉に葉いもちが多いと、穂いもちの発生も多くなります。**ほ場の発生状況をよく観察し、**発生が見られた場合には、早急にブラシフロアブル等の予防・治療効果のある薬剤を散布**しましょう。



【写真】葉いもち



### 【稲こうじ病】

- 昨年多発したほ場は、**防除適期(出穂20～10日前)に効果的な薬剤(例:ドイツボルドーA、モンガリット粒剤)**を散布しましょう。適期を逃すと効果が低下するので注意しましょう。

### 【斑点米カメムシ】

- 水田内の除草、水田周辺の除草(2回の草刈り)、薬剤防除により、**斑点米カメムシを寄せつけないように**しましょう。
- 飼料用米に対しても防除を徹底することで、**水田にカメムシを近づけないように**しましょう。



【写真】斑点米



【写真】クモヘリカメムシ

7月～8月は「農作業中の熱中症による死亡事故」が集中します。

夏の農作業で、以下のことに気をつけましょう。

- 日中の気温の高い時間帯の作業は控えましょう。
- こまめな休息、水分補給を行いましょ。
- 体調不良の症状がみられたら、すぐに作業を中断しましょ。

